

その他の八木の文書調査

松田家（通称：松田ミシン）所蔵の写真調査 報告書 2013 年

所在地：奈良県橿原市八木町 3 丁目 3-39

調査者：大阪府立大学大学院 人間社会学研究科
谷 彩夏

協力：NPO 法人八木まちづくりネットワーク

調査の方法

日本において現在、存在する社会や環境の問題はこの 100 年ほどの間に起きた社会の様々な変化が原因といわれている。諸問題の対策を考える際には、何がどのような過程を経て現在に至っているのか、その時代背景から思想に至るまで詳しく把握しておく必要がある。

本研究では主に”人々の暮らしの変化”に注目し、当時の写真調査と聞き取り調査を行う。

また、こうした趣旨の研究は農村地域のものが多く、商業地域を扱ったものはあまりみられない。そこで、古くからの商業地域であり、現在も往時の景観をとどめている場所の多い八木町周辺であれば、よりたくさんの写真が眠っており、また町の歴史を知る方も多くおられることと考え、八木町周辺を研究対象地とした。

今回、写真、手紙、軍事教練資料、絵はがきなど昭和初期から太平洋戦争終戦後にかけての資料を数多く所蔵しておられる松田家(通称：松田ミシン 橿原市八木町 3 丁目 3-39)の写真調査を松田尚子さんのご許可をいただき、NPO 法人八木まちづくりネットワークのご協力のもと、2013 年 1 月 15・17・22・23・30・31 日に行った。

写真は松田家 2 階の筆筒の 1 段目(図 1-1)に保管されていた。写真は封筒入のもの、アルバム整理されたもの、木箱に入ったバラバラの状態のものが

あった。このうち、木箱のバラバラの写真は全てを、封筒入・アルバムは八木周辺で撮られたとみられる写真を主に(図 1-2)、パソコンとスキャナを用いてデジタルデータ化し、リスト(松田家写真調査野帳.xls)を作成した。



調査結果

2013 年 1 月 15・17・22・23・30・31 日の 6 日間にわたって写真のスキャン作業を行った。

合計 558 枚取り込み、アルバム種類別の内訳と撮影時期を表 3-1 に示す。詳細なリストは松田家写真調査野帳.xls である。アルバムは撮影時期や場所がある程度限定できるが、木箱は八木町付近で撮られたもの、旅行先・戦地で撮られたもの、戦後東京の親戚から送られてきたと考えられる写真が混然一体となっており、今後も分類作業を進めてゆく必要がある。

表 3-1 アルバム等種類別の内訳・撮影時期

種類	撮影時期	枚数
木箱	1924～1973 年頃	388
黒小	1937～1941 年頃	38
黒中	1938～1944 年頃	112
陸軍御用達封筒	1937～1943 年頃	5
台紙一枚綴	1930 年	1
東京・赤抜粹	1960～70 年代	8
東京・人形抜粹	1960～70 年代	6

特筆すべきもの



・軍旗祭

S19.5.21 (木箱 38-1 など木箱に 86 枚)

松田善一氏が出征先から送ったとみられる写真のうち、大半を占めるのは軍旗祭関連のものである。綱引や百足競走など現在でも親しみのある競技をはじめ、敵国(米英)の軍人の顔をコミカルに紙に書き、それを担いで走るといった漫画競走(木箱 47-2 など)、占領した国の人に変装した応援団(木箱 78 など)など独特なものがあった。



・日常の写真

洗濯(黒中 p28-4, 木箱 176), 裁縫(黒中 p26-4)など。戦前の洗濯の様子を写したものは珍しい。



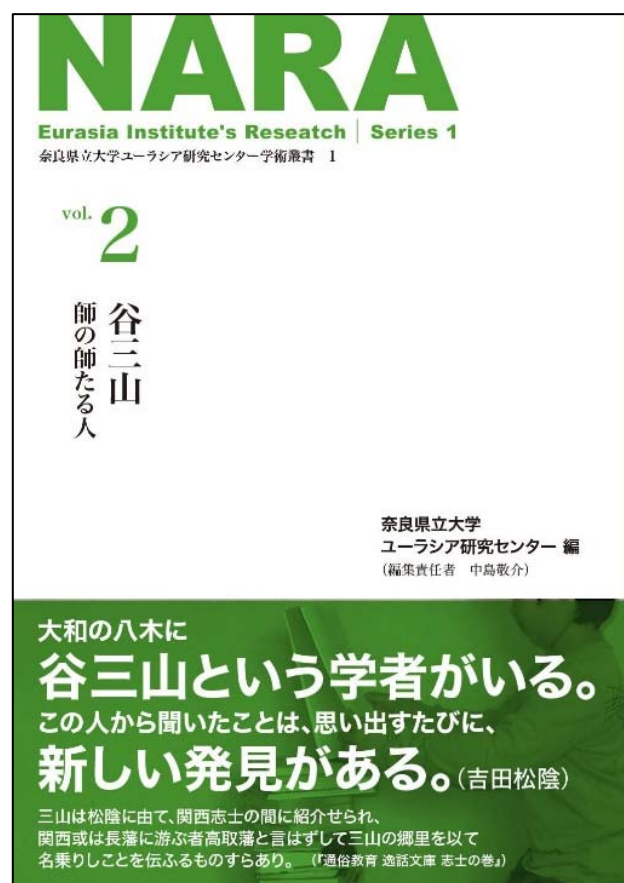
・宴会の様子(黒中 p10, p21, p24-2 など)



・町並みが写り込んだもの(木箱 180～182 など) (谷 彩夏)

「この人こそ、生涯寅次郎の高師と敬うべき方〔・・・〕はじめてここに師の師たる人を見」た、と出会いの感激と興奮に満ちた手紙を郷里に送ったのは、幕末最大のイデオログとも称される吉田松陰。出会った場所は大和(奈良)の八木。その当の相手が「谷三山」である、松陰に「日本一の大学者と存じ奉ります」と称賛された三山。しかし、その事蹟も、名前さえ、それほど詳しくは知られていない。新たな文書も発見され、本学ユーラシア研究センターの調査研究が始まった。今年(2017年)は、三山没後150年に当たる。谷三山研究プロジェクトのチームリーダーとともに、近世末の奈良に生きた「日本一の大学者」の足跡を辿る。
(EURO-NARASIA Q より)

から聞いたことは、思い出すたびに、新しい発見がある。(吉田松陰) 三山は松陰に由って、関西志士の間に紹介せられ、関西域は長藩に遊ぶ者高取藩と言はずして三山の郷里を以て名乗りしことを伝ふるものすらあり。(『通俗教育逸話文庫志士の巻』) 幕末の三山は、吉田松陰や頼山陽、松浦武四郎をはじめとする、当時の一流の学者たちにも一目おかれた人物だった。明らかに、谷三山は、奈良の有名な神社仏閣・文物・芸能と同様に、奈良の多様な「歴史の表情」の一つと言ってよい。本書が、これまで必ずしも明確な像が描かれてこなかった近世の奈良、とりわけ幕末期を中心とした時代の豊饒な文化・思想空間を感じ取っていただく機会となれば、これに優る喜びはありません。(編集責任者 中島敬介)



谷三山~師の師たる人(奈良県立大学ユーラシア研究センター学術叢書)

2022/3/31 ユーラシア研究センター編

大和の八木に 谷三山という学者がいる。 この人